

目 次

P1	新年のあいさつ	支 部	長	小黒 幸市
P1	第六次中国浙江省訪問団報告	支 部	幹 事	羽山 定治
P2	平成 27 年度 栃木県支部 企業見学会報告	支 部	員	柳瀬 宣義
P3	「初心者向けバイオマス講演会」報告	支 部	幹 事	久芳 良則
P3	将来の技術者育成の「理科教室」活動報告	支 部	幹 事	西谷 元則
P5	三級、四級アマチュア無線技士試験にチャレンジ	支 部	員	富澤 廣三
P6	科学技術講演会報告			
	『中核都市の将来に向けた交通体系を考える』	支 部	幹 事	宮下 治
P6	第 45 回日韓技術士国際会議 (in 春川)			
	-2015.10.22~24 - 参加報告	支 部	幹 事	黒川 昌司
P8	栃木県支部 報告会・講演会・交流会報告	支 部	幹 事	谷口 雅昭他
P8	ECO テック&ライフとちぎ 2015 出展報告	支 部	幹 事	川上 寛児
P11	協賛団体の紹介 栃木県支部広場			
	まちびあ祭り 参加報告	支 部	会 員	柳瀬 宣義
	コラム 真岡市の「専修寺 御影堂」	支 部	広 報	大岩 正通
P12	協賛団体の紹介 「株式会社ピーシールールウェイコンサルタント」			

新年あいさつ

支部長 小黒 幸市

明けましておめでとうございます。昨年は各委員会からの報告のように、支部会員の活発な活動により充実した一年となりました。



本年も県支部のモットーである「地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋に」をより深化させる一年にするため、昨年要請の多かった「子供の理科教室」の拡充、「市貝町まちづくり」の参画、「産学官各関係との連携強化」等、地域の活性化にお役に立つようつながりを広めたいと思います。

会員の自己啓発や情報公開を目的としたCPD講座の開催、隣接する茨城・群馬・埼玉等の支部間交流、中国浙江省との技術交流の継続、さらに、本年当支部の日光市で開催される第46回日韓技術士国際会議(10/2~4)の成功等に向け取り組んでまいります。

本年も何卒よろしくお願ひします。



第六次中国浙江省訪問団報告

支部幹事 羽山 定治

中国との技術交流を目的として、2009年から始まった訪問団であり、今年第六次訪問団として6月7日から12日まで、寧波市で開催された「2015 浙江国際技術移転プロジェクトマッチング大会(8カ国が参加)」に招待され、マッ

グ大会参加、セミナーにおける講演発表、研究所・企業訪問等を行った。栃木県支部から菅井俊郎氏、萩原良章氏及び筆者の3名が参加し、菅井俊郎氏及び萩原良章氏は5Sに関する講演発表、筆者は工作機械技術に関する講演発表を行った。

3社の企業訪問をしたが、5Sと品質管理が十分でない企業は1社だけで、他の2社(工作機械メーカー及び精密位置決め装置メーカー)は5Sと品質管理は十分であり、しっかりとした物作りをしており、技術レベルの高い製品作りをする意欲を強く感じた。

筆者は今回で4回



目の浙江省訪問になるが、あらためて、中国の物作りの奥深さを実感する訪問となった。また、企業への行政の支援が活発であることを感じた。さらに、物作りの質を高くする方向性も感じた。企業から参加しているセミナー参加者の聴講する熱心な様子も印象的であった。なお、筆者は今回の訪問により、技術レベルの高い精密機器メーカーの技術支援を始めることになった。



また、訪問したこの時期は、浙江省ではおいしい「やまもも」を食べることができる。

平成27年度 栃木県支部企業見学会報告

支部会員 柳瀬宣義(機械部門)

日 時：平成27年9月24日(木)

場 所：サンデン(株)赤城事業所

サンデンフォレスト

場 所：群馬県前橋市粕川町中ノ沢

事業所概要

- ★稼働開始：平成14年3月
- ★敷地：約20万坪(内工場約10万坪)
- ★緑地：10万坪、整備遊歩道6Km
- ★製品：飲料自動販売機、陳列ケース、カーエアコンとその部品

見学内容

1. サンデン赤城事業所

製品は市内でよく見受けられる飲料自動販売機、及び店舗にあるショーケースである。生産台数は一日当たり約300台で、工場内は余裕をもってレイアウトされており、品質管理は徹底されている。完成品の機能検査は全数実コインで確認され出荷されている。

別棟で行われているカーエアコンコンプレッサー製造も国内では3位で海外向けが多いとのことである。

2. サンデンフォレスト

自然環境と企業活動の共存を目指して、広大な未開発の森林や赤城山の麓に河川が流れている。

1) 森林散策路

全長6kmの散策路が設置されており、鬱蒼と茂る樹木のなか、人間の手の入っていない自然が観察できる。



2) オオムラサキ繁殖育成舎

活動状況の説明は、オオムラサキやアサギマダラの貴重な蝶の繁殖舎の前でサンデンフォレストの岡田様から受けた。



3) 希少植物の観察

随所に貴重な植物が自生している。踏み荒らされないように柵で囲いされている。

また、写真では見えないが監視カメラが設置されており、夜間に出没する小動物も観察できる。



4) 砂防ダムと水力発電所

敷地内の川には砂防ダムが設置されている。ダムの堰堤には蔦が這って全面を覆っていてコンクリートの地肌を隠している。

放水路の下には水車が設置されていて、水力発電が見られる。



3. 今見学に当たり、親切に説明いただいたサンデンフォレストの岡田様や関連の皆様深く感謝いたします。



「初心者向けバイオマス講演会」報告

支部幹事 久芳 良則

産総研福島再生可能エネルギー研究所副所長坂西欣也先生を迎え、市貝町と日本技術士会栃木県支部共催で「初心者向けバイオマス講演会」を開催しましたので報告します。

1.日 時：平成27年10月16日(金)

15:30~17:00

2.場 所：市貝町役場多目的ホール

3.出席者：一般参加者、町職員、県支部会員
(延べ約40名)

県支部会員(敬称省略)：計8名

黒須重富、菅井俊郎、米田千瑳夫、吉田修、川上寛児、市川恭治、萩原良章、久芳良則

4. 内容

講演会にあたり、市貝町入野町長の挨拶をいただき、坂西先生より1時間20分の講演後、質疑応答を行った。



最後に黒須副支部長より御礼の挨拶にて終了した。講演後には坂西先生を囲んで入野町長、県支部会員にて懇談会を行なった。

《主な講演内容》

- 1) エネルギー基本計画(2014.4)では、日本の電源構成は海外からの化石エネルギーに対する依存度が88%(2014年)と高く、再生可能エネルギーに関してはまだ3%、自給率は6%に過ぎないことから、長期的施策として省エネの強化、再生可能エネルギーの導入加速が謳われている。
- 2) 福島再生可能エネルギー研究所は平成26年4月に開所され、エネルギー自立度を高める再生可能エネルギーネットワーク技術の開発・実証が行われている。
- 3) 変動電源から水素製造利用：例)液体有機水素の形(メチルシクロヘキサン)で貯蔵
- 4) バイオマスへの期待：資源エネルギー・環境保全・経済発展のトリレンマすべてに関係するバイオマスの利活用(固体・液体・ガスを作れる)が期待されている。
- 5) バイオマスのデメリット：多く集めるのが大変→集まっているところで利用(農業残渣・野

菜くず) 小型化

- 6) バイオマス活用推進会議による2020年目標：①2600万炭素トンのバイオマス利用、②5000億円規模の新産業創出、③600市町村のバイオマス活用推進計画策定
- 7) バイオマス産業都市：地域のバイオマスを活用した産業創出と地域循環型エネルギーの強化。地域の特色を生かしバイオマス産業を軸とし環境にやさしく災害に強い町むらづくりを目指す。5年間に100地区のバイオマス産業都市構築に向けて支援。
市貝町も取り組めるのではないかと(炭焼き産業が残っている)茨城の牛久市が選ばれている(全国19市町村)。地域のエネルギーの組み合わせ。
5. 考察：市貝プロジェクトはバイオマス産業都市化への検討が有効かと考えられる。また、熱エネルギーの利用先として温泉も考えられるようだ。

将来の技術者育成の「理科教室」活動報告

支部幹事 西谷 元則

1. エンジョイカガク2015

主 催：帝京大学(サイエンスライオン)

日 時：9月13日(日)10:00~15:00

会 場：帝京大学宇都宮キャンパス

参加者：全体1800人の来場

県内の小学生100名(AM:50名, PM:50名)、保護者等98名、帝京大学生3名

会員出席者(敬称省略)

松原、西谷、久芳、川上、吉岡、長山、柳瀬

《内 容》

今年は、「理工系進学体験イベント・エンジョイカガク」に、「みらいの自動車教室」として3回目の参加となりました。毎年好評で、参加者チケットは即定員に達しました。

県支部会員の松原講師(環境支援小委員会副委員長)には、環境学習として「化石燃料を使った車は電気、さらには燃料電池に移っていく」といった内容の教室を行って頂きました。

勉強後は、楽しみにしていた「マグネシウム燃料電池ミニカー」を作成し、牛乳パックで作ったコースで走行会を行いました。小学生は、自分で作ったミニカーが動くと、すばらしい笑みを浮かべ、終了後「楽しかった。ありがとうございました」

た」といって帰っていく姿に将来の技術士への挑戦を期待する私がありました。理科教室の開催の最大の喜びってどこですかね。

県支部として理科体験教室は、ここ数年は数名のスタッフで地道に活動してきたが、ようやく本格的に活動するようになり、吉岡さんに初参加(スタッフ)していただき大変心強いスタッフの加入に感銘しております。



2. 宮っこファスタ 2015

主 催：宮っこファスタ実行委員会（宇都宮市）

日 時：10月10日（土）9：00～14：00

会 場：オリオンスクエア

参加者：来場の小学生 30名

（AM:20名、PM：10名）、保護者等 50名

会員出席者（敬称省略）

川上、久芳、木村、松原、吉岡、長山、大岩、西谷

内 容

県支部として初回参加となる「宮っこファスタ」に、「コイルモータ体験教室（小学生対象）」を宇都宮市産業政策課テントの一部お借りして初開催しました。

オリオンスクエアは宇都宮市街地の最も賑わいある会場であり、今回の理科教室は他のテント（飲食店や職場体験）に並んでおり、子供達が立ち寄ってくれるか心配でした。しかし私の老婆心でした。

開催時間から直ぐに子供達に好評で午前中に用意したキットの半分以上体験してもらい、午後の分を残すため、人数を調整することになってしまいました。私の読みが甘く来年は50キット以上を用意する必要があるかもと反省いたしました。

来年も参加予定です。是非県支部会員の方も、ご協力ください。



3. 第8回うつのみや人づくりフォーラム

主 催：うつのみや人づくり推進委員会

（宇都宮市）

日 時：11月28日（土）9：30～14：30

会 場：宇都宮工業高校

参加者：来場の小学生 40名（AM:20名、PM：40名）、保護者等 30名

会員出席者（敬称省略）

川上、久芳、木村、松原、吉岡、長山、大岩、西谷

《内 容》

今回「燃料電池ミニカー教室」として初参加しました。午前・午後とも定員 20名全て満席となり大盛況でした。

県支部会員の松原講師（環境支援小委員会副委員長）には「地球温暖化による将来の車の動向」を小学生に分かりやすい環境教室を行って頂きました。

その後、「マグネシウム燃料電池ミニカー」を作成し、牛乳パックで作ったコースで走行会を行いました。

参加した小学生は、自分で作ったミニカーによる走行会を楽しみにしており、大変盛り上がりました。

保護者の方には技術士と言う国家資格について知って頂き、その中には資格取得に挑戦している方もいらっしゃいました。「こんな素晴らしい活動をしている技術士の集まりに是非参加したい」と言ってもらい、子供の理科教室のみでなく保護者にも影響を与えられるまでになりました。

大変やりがいを感じました。

大変やりがいを感じました。



三級、四級アマチュア無線技士 試験にチャレンジ

支部会員 富澤 廣三(建設部門、防災士)

私は、約十年前に阪神淡路大震災を契機に国が創設した防災士制度を知り無理やり友人、知人を誘い、東京で受講料等約十万円を支払い取得しました。



その後、防災士の仲間と栃木県防災士会支部を立ち上げ県内各地で防災、減災のための各種、研修会、講習会などの活動しております。

更に、茨城、群馬県との防災士ネットワークの必要性を感じ、全国で初めて北関東支部連絡協議会(この会がモデルとなり全国に各地方の連絡協議会が設立された)も立ち上げて定期的に、防災訓練、スキルアップ研修会、東北方面への支援など展開をしています。

また、昨年、二年間は日本防災士会の本部理事として全国の情報や本部理事との交流により今後の防災士活動の在り方などについて学ぶ機会がありました。

その後、任意団体の支部としての活動には限界があり、稲葉 茂 理事長を中心にNPO法人格を取得し県、各市、町などからの各種の要請に対応することにしました。

法人格を取得後は対応するのが困難なほど要請が有り嬉しい悲鳴を上げております。

また、稲葉理事長と共に、作新学院大学の客員教授に就任して防災関係の講義を担当しております。

私は県内各地で(防災の原点)は「自分の命は自分で守る」こと、即ち、「自助」の精神である。自分の命があって初めて家族や地域の人を守る事が出来ると声を大にして話しております。

ある時、自分の命は自分で守る、さて、「命」「生命」とは何だろうと疑問に思えて来ました。

命とは人間が生きる 原動力、生命力、人間の宝ですが、命とは自分に与えられた「時間」である事を知りました。

この、自分に与えられた命、時間をいかに有意義に、一日でも長く使うかは自分で考えることであります。

最近、良く耳にしますが特に高齢者には教養(今日、用事があるか)、教育(今日、行くところが

あるか)が必要と言われております。

もう一つは、「繋ぐ命」です、自分の命は先祖代々から永遠に繋がり、また、子や孫に永遠と繋いでいく命です。

命にはこの二つがあることを知りました。

少し前置きが長くなりましたが、平成二七年は全国各地で大災害が発生し、栃木、茨城県での大災害、特に鬼怒川が破堤するとは、改めて総合治水対策の必要性を痛感いたしました。

今回の大災害でも問題になりましたが災害時は通信網が不通になり、情報の伝達手段が大きな課題となって来ております。

そこで、最近では県内各地での総合防災訓練にはアマチュア無線技士が参加し情報伝達の新しい手段として活躍している姿を良く目にしています。

我々の防災士会の仲間にもアマチュア無線技士がおり、力強く感じております。

昨年、六月に東京で本部の総会がありH防災士(アマチュア無線技士)と帰り道、浅草で簡単な打ち上げをして、物足りず、酒、つまみを持ち込み電車で飛び乗りをしました。

その時、H氏から今後の防災士活動には無線が絶対に必要になるから資格を取ったらいいですよと誘いを受けました。

最近ではゴルフを辞めた人がアマチュア無線に飛び込んでくる人が多いとか、未知の世界が広がり趣味の幅が深くなり生活が楽しくなると更に、誘って来ます。

今更、勉強は沢山、最近では認知症予備軍に近く無理、無理、と強く断りました。

H氏はそれでも中々、引き下がらず人生が楽しくなるよ、旅に出ても無線で色々な情報が入るよ、オームの法則さえ解れば受かるよ、酒の勢いもあり遂に載せられてしまいました。

早速、H氏の無線のA先生(防災士)から試験の申し込み期限も近く、枠も少なくなってきているとの連絡を受け、ついに申し込みをしてしまいました。

四級アマチュア無線技士の養成課程講習会は八月初めに予定されており、早速、土屋書店の「初めての三級、四級アマチュア無線技士試験、ページ数 二一六」を購入し少しずつ勉強を始めました。確かにオームの法則はありましたが、その内容は、無線工学(無線工学の基礎、電子回路、送信機、受信機、電信電波伝搬とアンテナ、電波障害、測定器)、電波法規(電波法、無線局の免許、無線設備、無線従事者、運用、監督、業務書類、

国際電波法規)と正しく専門語の羅列に感じました。

取りあえず分からないなりに、一冊を読み込みましたが、殆ど理解することが出来ませんでした。認知症予備軍には物凄い過酷な試練でした。これは全然問題外だと諦めかけましたが、此処まで来て引下がるわけにはいかず、ある作戦を考えました。

幾ら本を読んでも理解は困難と思い、巻末に直前対策、国家試験問題が有ることに気付いて、問題を解くことから始めました。その問題に出てくる専門用語などを逆に本の中から、紐解き理解することにしました。これが非常に役に立ち問題がある程度、解くことが出来るようになり、少しずつ理解が進みました。

いよいよ試験当日を迎え、国家試験だけあり、試験会場はピリピリした、かなり厳しい環境の中で講習会、終了試験も無事に終了しました。

私の隣に小学三年生の女の子が、離れた席で母親と受験しておりました、聞きましたら、お父さんがアマチュア無線をされており興味を持ったようです。側聞しますと小学低学年から八〇歳ぐらいまでが受験するようで永久ライセンスと人気があるようです。

お陰様で、何とか合格をしましたら、今度はA先生から四級を合格すれば三級の受験資格が出来る。3級になれば、空中線電力ワットも大幅に増えるので更に、未知の世界が広がるよ、試験日も一〇月でそろそろ締め切りで枠も少なく成って来ているよと、更に誘いを受けました。

辞めて下さい、もう沢山です、これ以上は無理ですと強く断りました。

しかし、此処までやったなら、せめて三級までは欲しくなり辞めれば良いのに受験することにしました。

これがまた、艱難辛苦の始まりでした、三級には国際電波法規、モールス符号、文字、数字、記号、Q符号、略符号等が入るのです、ここに至っては想定外でした。

モールス符号は目で覚えるより耳で覚えるのが早いと指導を受けましたが、これ又、更に難しく感じました。

8月末に体調を崩して県がんセンターに2週間程、入院を余儀なくなり治療の片腹、ベッドの中で勉強を続けました。

その努力の成果が有ったのか、目出度く合格をする事が出来ました。

合格したと言えペーパードライバーならぬ、ペーパー無線技士です。

今後は、一日も早く実技を身に着けて、無線設備を整備し世界に向けて送受信出来ることを夢見つつ研鑽に努めていきたいと考えております。

思わぬお誘いで四、三級と続けての試験でしたが我ながら良くやったと感心しております。皆様も是非チャレンジしては如何ですか、新しい世界が開けます。

科学技術講演会報告

『中核都市の将来に向けた交通体系を考える』

支部幹事 宮下 治

宇都宮市副市長荒川辰雄さんの講演で内容は、『中核都市の将来に向けた交通体系を考える』です。開催は、平成27年10月31日(土)14時~16時、会場は宇都宮大学工学部アカデミーホールで行われました。参加者は約100名でした。



講演の内容は以下のとおりです。1. 宇都宮市ネットワーク型コンパクトシティ2. 工業団地までの沿線の現状3. 東西基幹公共交通の実現に向けた基本的な考えかた4. 利用者アンケート調査の結果5. 運輸事業としての採算性の見通し6. 設計段階における新たな課題7. 初期投資と償還の見通し8. 今後の展開9. まとめ。

宇都宮市ネットワーク型コンパクトシティの説明があり、都市拠点を中心に既存コミュニティを産業拠点、観光拠点及び地域拠点をつくり、その間を公共交通機関、車等で結び、交通渋滞を解消しようとするものです。公共交通機関の一つとしてLRT導入の検討が行われた。

LRT導入に当たっては、利用者等からのアンケート調査を行い、その調査を分析して利用する可能性を推計し、運輸事業として採算性の見通しを検討していた。建設費については初期投資と償還の見通しについての資金計画の説明があった。導入計画にあたっては様々な方向から検討が行われていた。LRTは中心市街地の往來の交通手段となり、交通混雑の解消にも繋がることの解説があった。また、LRTの導入は、

東西に延長し東は「宇都宮テクノポリスセンター地区」とおり芳賀町役場、西は「とちぎ健康の森」とおり東北縦貫道高速道路まで結び、宇都宮市を中心に横断する構想があり「土地利用の再編、高度化と公共交通ネットワークの形成」の青写真が披露された。

宇都宮市の市街地では、少子高齢化や商業店舗の衰退、市内の交通混雑を抱えています。

このLRTが「市民の足」となれることを期待したいと思います。



第45回日韓技術士国際会議 (in 春川) - 2015.10.22~24 - 参加報告

支部幹事 黒川 昌司

第45回日韓技術士国際会議は、2015年10月22日から24日にかけて韓国の春川市において開催された。

春川市(チュンチョンシ)は、首都ソウルから東北東約75kmに位置する江原道の道庁所在地で、面積1,116.4平方メートル(7割が山林)、人口265千人の地方都市である。



ドラマ『冬のソナタ』のロケ地として知られるリゾート地でもあり、2018年には、近隣の平昌郡(ピョンチャンぐん)において第23回冬季オリンピックの開催が予定されている。

会議参加者は、韓国121名、日本92名、計213名で、我が栃木県支部からは15名の会員が参加した。



22日夕刻、春川の松巖 Leports Town 主競技場において、恒例のプレ・イベントであるサッカー大会が開催された。熱戦の末、2:1で韓国チームが勝利した。

会議は、23日午前9時からエリシアン・カンション・リゾートホテルにおいて開催された。

初めに、韓国技術士会の嚴翼俊(Um Ik Jun)会長の歓迎の挨拶があり、日本技術士会吉田克己会長が答礼の挨拶を述べた。

続いて、日韓双方の交流委員会の金在權(Kim Jae Kwon)・田中俊生両委員長が基調報告を行った。

本会議基調講演は、韓国側では李康建(Lee Kang Kun)会員が、3年後のピョンチャン冬季オリンピック開催に向け、主に投資効果の視点で、過去のバンクーバー大会、長野大会等の事例について分析結果を発表した。

日本側は、野口好夫会員が、長野オリンピックと愛・地球博(名古屋)における関連公共施設の建設・運営の実情について、又、日本における社会資本の老朽化問題とそれに対する提言を発表した。

日本の社会資本は、高度経済成長期に集中的に整備が進んだが、現在それらが更新時期を迎えつつあり、諸施設の持続可能な管理運営が喫緊の課題となっている。しかし、多くの社会資本を抱える地方自治体の体制が不十分であり、制度改善の必要性を訴える内容であった。

又、社会資本の維持管理には、建設技術の伝承とTrade・Off問題に伴う技術者倫理の必要性についても触れていた。

日本以上のスピードで経済成長を遂げた韓国にあっても傾聴に値する発表であったかと思われる。

午後からは、5つの分科会が開催され、栃木県支部からは、羽山定治(機械)、亀田則夫(建設)両会員が発表を行った。

羽山会員は、第4分科会(電気・電子・情報・通信・機械)において「韓国の工作機械の技術支援」というテーマで発表を行った。

工業の基盤とも言える工作機械についての豊富な経験に基づく発表であったため、短期間に工業化を推し進めてきた韓国の参加者からは、多数質問が寄せられていた。

亀田会員は、第2分科会において「多重防御型復興まちづくり」というテーマで発表を行った。なお、第2



分科会は福田一郎会員が共同座長を務めた。

亀田会員は、2014年に東日本大震災復興要員として岩手県職員に採用され、震災津波被害の大きかった大船渡市に派遣されて、土地区画整理事業の経験を活かし、市の復興まちづくりに貢献している。



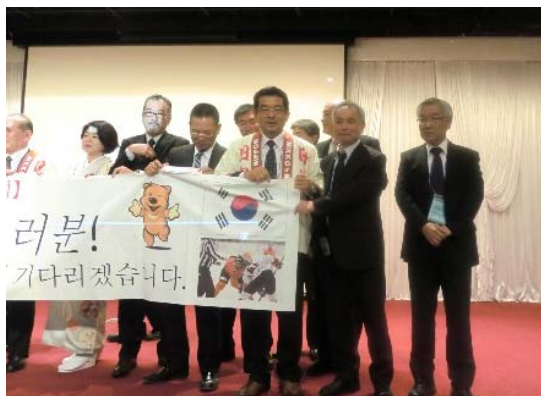
現場体験に裏打ちされた発表には重みがあり、改めて津波被害の大きさ、住民への打撃、復興対策の実情・問題等を認識することができた。

夜の部、晚餐会には日韓会員が一堂に会し、円卓に酒食を楽しみながら和やかに歓談した。

固よりハングルでの会話は無理だが、隣席者とは、片言のイングリッシュで、そこそこに意を通じ合い、親睦を深めることができたと思う。

アトラクションには、韓国民族歌謡が披露された。

後半、宴もたけなわの頃、栃木支部会員を中心に壇上に上がり、次回日光大会をPRした。



翌24日の研修視察では、KD Power（分電盤組立工場）、昭陽江（多目的ダム、計画貯水量29億 m^3 、ロックフィルダム）、春川マックス（韓国蕎麦）博物館を見学した。



ECO テック&ライフとちぎ2015 出展報告

支部幹事 川上 寛児

【概要】

*期間 12月5日(土)～6日(日)
10:00～15:00

*参加グループ 49団体

*参加人員 3,165人(会員延べ5名)

【県支部ブース】

* 2コマ利用

* パネル：日本技術士会紹介、活動状況、自然エネルギー、市貝プロジェクト、Mg電池ミニカー、コイルモータ製作、水浄化実験

* 動態展示：Mg電池ミニカー、コイルモータ製作、水浄化実験、磁石独楽

* 説明要員(延べ)5人×2日

【結果など】

* 2日間、ほぼ切れ目なく来客あり。Mgミニカー5台販売、コイルモータ32セット提供

* 県支部そのものに関する問い合わせ、質問などは数名にとどまった。以上



栃木県支部 報告会・講演会・交流会報告

支部幹事 谷口 雅昭 他

日時：平成27年12月12日（土）
13:30~17:00
場所：ホテル丸治（宇都宮市）
主催：公益社団法人 日本技術士会栃木県支部

1. はじめに

平成27年の栃木県支部の活動を締めくくる報告会・講演会・交流会が開催された。その概要を報告する。出席技術士は約30名であった。

2. 報告会・講演会

企画副委員長 亀田氏の司会で始まり、以下の内容で進行した。

1) 支部長挨拶

小黒支部長より挨拶と栃木県支部会の今年度の活動について概要紹介があった。

2) 報告会

①平成27年度 浙江省訪中・訪日団報告

まず、萩原 良章氏より、11月8日から11月22日に来県した浙江省科学技術代表団の訪日の報告があった。来県者は18名。10日に開催した歓迎懇談会には栃木県産業労働観光部部長をはじめ47名が参加。技術士は15名であった。

セミナーの開催、長府製作所、日本電産エシス他 工場見学、栃木県へ表敬訪問等のスケジュールを積極的に消化したとのこと。最終日の宿泊先で北国の春を羽山氏の伴奏で合唱したり、味噌の話で盛り上がりたりした紹介があった。



引き続き、栃木県支部 幹事の羽山 定治氏より2015年6月に訪中した、第6次浙江省訪

問団の報告があった。訪中者は菅井前支部長・羽山幹事・萩原氏の3名。



2015年 浙江省国際技術移転プロジェクトマッチング大会に参加して羽山氏が講演やイケヤフォーミュラが開発したシームレストランスミッションの紹介等があったとのこと。

この他、5Sや3Hの紹介セミナー、工場見学として、自動車メーカー、携帯用発電機メーカー やプロチ盤メーカー等の見学などを精力的に行った。また、この際に訪問した精密機器メーカーに対し羽山氏が技術支援を開始した旨報告があった。

②平成27年日韓技術士国際会議参加報告

田仲喜一郎元会長より、第45回日韓技術士国際会議へ参加した報告があった。今回は韓国、春川で平成27年10月に開催された。また第46回日韓技術士国際会議が、平成28年10月に栃木県日光市で開催されることが決定した旨紹介があった。県支部は、運営委員会を組織することになり分担を決めているが、さらなる協力の依頼があった。



テーマは「伝統的技術と最新技術の融合と発展」で論文の公募を早めるなどしてよりよい国際会議となるように努めている。現在、予算を決めているが、予算が限られているので協賛広告を募ったり、多くの方の参加をお願いしたりするように働きかけを強めている。

日本技術士会本部の交流委員会との間でこれまでの検討した議題と今後の検討事項の紹介があり予算も含めて国際会議のイベントを決定し

ながら、協賛広告、ポスター広告等の企画書をつめていくとのこと。（文責：谷口雅昭）

3) 講演会

①「栃木県支部の将来に向けて」

講演会は、菅井氏（菅井技術士事務所代表）から、県支部活動を振り返り「栃木県支部の将来に向けて」というタイトルにて、活動の場を通して得られた経験や知見について講演いただいた。



講演では、今後の栃木県の技術士活動においては関係団体の支援や地域自治体との協力、また、課題や仕事を見つけた人が中心になって問題解決をはかる大切さを述べられ、技術士が地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋となる必要性を力説いただいた。「技術革新の多くは社会貢献の中から生まれてきた」という言葉が印象的でした。（文責：柏崎 和久）



②東日本大震災復興報告

講演会の後半は、平成26年度より東日本大震災の復興に携わる2名の県支部会員から、被災地の復興状況について報告が行われました。



初めに復興庁の復興支援員として福島県楡葉町役場建設課に派遣されている宮下治会員（上下水道部門）より、今も続く楡葉町の原発事故の影響や除染状況、そして、厳しい条件下におかれている町民の帰還問題などについて報告がありました。

次に、岩手県より津波浸水被害の大きかった大船渡市役所災害復興局に派遣されている亀田則男会員（建設部門）から、最盛期となった大船渡市中心部の復興まちづくり状況と、今後の復興課題について報告がありました。



まだまだ、東北の被災地復興には時間がかかります。皆様の応援をよろしくお願いします。「まげねど、がんばっぺし!!」(文責：亀田則男)

4) 交流会（兼忘年会）

交流会は予定していた参加者の殆ど（33名）が出席し柏崎副委員長の名司会で始まった。小黒新支部長の開会挨拶、吉田氏の心のこもった乾杯挨拶後、各人の普段の思いや県支部の活動等、終始和やかにテーブルを超えて交流を深められた。講演会、報告会で質問ができなかった人も酒宴の席では自由に意見が述べられて非常に有効な時を過ごすことが出来たように思う。今後の栃木県支部の益々の発展を祈念して約2時間の宴を吉岡氏の締めめの挨拶で終了した。（文責：金澤 政和）



栃木県支部会報広場

＝「まちびあ祭り」参加報告＝支部会員 柳瀬宣義(機械部門)

日 時：平成27年10月18日(日)

場 所：宇都宮市まちびあ広場

目 的：まちびあ関連の諸団体のコミュニケーションと地域住民との交流を図るためのイベント。

対 応：本年は21団体が参加。昨年に引き続き、児童・学童向け理科学習「紙コプター」と「電池の原理」

来場者：約300名(昨年は400名)

①紙コプター

工作紙を切り、一部ひねってクリップで止めておもり兼用にした簡単なもの。4タイプを用意し、一つは渡邊(英)さんから提案された型。

洗濯バサミを利用した降下治具を作り、テントの梁及び2階ベランダから落下させた。よく回転降下するもの、回転せずストンと落ちるものあり、空力学的解析が必要である



②電池の実験

二つの異なる金属板間の電位差を利用して電流が流れる実験をみせて、電池の原理を理解する。体験した小学生は、初めて作ったモーターが動くと喜びをお浮かべ、終了後「ありがとうございました」といって父兄の方を含めてお礼を言われました。モーターの原理を作りながら子供達に教え、理解しているかは別に大変有意義な時間をすごしました。今回は支部会員の木村さんに初参加(スタッフ)していただき大変助かりました。



＝コラム＝(広報委員会 大岩正通)

入野家住宅 主屋

(いりのけじゅうたく おもや)

今回は、芳賀郡市貝町の「入野家住宅 主屋」を紹介します。

主屋は天保7年(1836)から同12年(1841)の5年を費やし、飢饉に当たって村民救済事業として建設されたことが明らかになっています。

主屋は宇都宮市周辺に多い折曲がった形式で、一部二階、茅葺寄棟構造で、桁行十間半、梁間四間半の主体部と、その上手前よりに桁行七間半、梁間二間半の座敷部が喰違いに配され、棟は前後に平行してその間を短い棟でつないでいます。

所在地：芳賀郡市貝町大字赤羽 2877

文化財：国指定重要文化財



協賛団体の紹介

PC 株式会社 ピーシーレールウェイコンサルタント

代表者名：代表取締役 新部 定夫

所在地：〒321-0954
 栃木県宇都宮市元今泉3丁目18番13号
 U R L：http://www.kk-pc.co.jp/
 E-mail：pc@kk-pc.co.jp
 T E L：028-639-0353
 創立年月日：平成元年6月28日
 従業員：108人
 業務内容：
 橋梁の設計・鉄道構造物の設計・道路設計
 河川・砂防ダム・上下水道の設計

弊社は平成元年（1989年）6月の創業以来、建設コンサルタントとして順調に発展して参りました。PC構造物の設計でスタートし、その後鋼構造物、道路、河川、上下水道と業務範囲を拡大して参りました。平成27年4月には、経営の合理化と多様なニーズに応えるため、鉄道構造物の設計を得意とする株式会社レールウェイコンサルタントと合併しました。

少子高齢化や財政再建といった大きな課題を抱えながらも、巨大地震などの自然災害や老朽化した社会資本の維持・更新に対応していくために、建設コンサルタントの果たす役割はますます重要になってまいります。

弊社の経営理念に基づき、技術の伝承を図りながら社会に貢献できる企業であり続けるために、役職員一同一致団結して技術の向上に努めて参ります。



協賛団体の紹介（五十音順）

当支部に協賛載っている団体です。

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 株式会社 イケヤフォーミュラ | 栃木県支部会報 7号紹介 |
| 宇都宮測量 株式会社 | 栃木県技術士会報18号紹介 |
| 株式会社 エネルギー応用技術研究所 | |
| 晃洋設計測量 株式会社 | 栃木県技術士会報12号紹介 |
| 株式会社 三和電機 | |
| 株式会社 真和技研 | |
| 株式会社 藤原設計 | |
| 株式会社 ダイミック | |
| 株式会社 中央土木工学研究所 | 栃木県支部会報 創刊号紹介 |
| 東亜サーベイ 株式会社 | 栃木県技術士会報14号紹介 |
| 東洋測量設計 株式会社 | 栃木県支部会報 3号紹介 |
| 株式会社 トキタ・ac | 栃木県支部会報 5号紹介 |
| 株式会社 栃木用地補償コンサルタント | 栃木県技術士会報15号紹介 |
| 有限会社 那須化成 | |
| 日研測量 株式会社 | 栃木県支部会報 4号紹介 |
| 日昌測量設計 株式会社 | 栃木県技術士会報16号紹介 |
| ★ 株式会社ピーシーレールウェイコンサルタント | |
| 株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ | 栃木県支部会報 6号紹介 |
| 富士コンサルタンツ 株式会社 | |
| 芙蓉地質 株式会社 | |
| 株式会社 水環境プランニング | 栃木県技術士会報17号紹介 |
| やまこ産業 株式会社 | 栃木県支部会報 2号紹介 |
| 人創り工房 Y&Kコンサルティング | |

上記団体を順次ご紹介させていただきます。「★」は当号の紹介です。

編集後記

今回の会報は、国際交流や会員への研鑽活動、将来の技術者育成、会員の活動など多岐に渡る活動であり、掲載原稿を厳選するのに一苦勞でした（うれしい悲鳴です）。

この機会をかりて願います。会員の方に県支部活動に参加していただきたいです。特に若手会員に希望いたします。

我々県支部は地域の貢献のため、さらに自己研鑽のためにすばらしい活動の場を会員の方に提供できる環境にあります。

日頃のお仕事は大変でしょうから、スポット参加も大歓迎です。今年は日韓国際会議が栃木県で開催されますので、皆様のご協力をお願いします。

是非、いっしょに地域のために、貢献しましょう！

広報委員会は本部ホームページを活用し、会員の方々に情報を伝達していきます。定期的に関覧してください。

http://www.engineer.or.jp/c_shibu/tochigi/

公益社団法人日本技術士会 栃木県支部 会報 第8号 2016年1月発行

発行者 栃木県支部（支部長 小黒 幸市）

広報委員会：委員長 西谷元則

副委員長 谷口雅昭、長山八洲稔

委員 大島晃二、大岩正通

事務局 〒321-0954

宇都宮市元今泉5丁目9-7 宇都宮まちづくりセンター内

Tel:028-666-5816/Fax: 028-666-5148